

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

伝統と職人の技術、桐下駄文化を次の世代へ

猪ノ原 武史 茨城県 / 桐下駄職人

「匠」のモノづくりを応援

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催:レクサス)は、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

プロジェクトのスーパーバイザーに、放送作家として多くのヒットを手がけ、くまモンの生みの親でもある小山薫堂氏を迎え、隈研吾氏(建築家/東京大学教授)、グエナエル・ニコラ氏(デザイナー)、清川あさみ氏(アーティスト)、生駒芳子氏(ファッション・ジャーナリスト/アート・プロデューサー)、下川一哉氏(意匠/匠研究所)らをサポートメンバーに発足。第一回となる今回は、全国47都道府県から地域推薦、一般公募合わせて52名の若き匠が選出された。

昨年夏、レクサスギャラリー・高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ねるエリア・コンサルティングを重ね、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトづくりに取り組んだ。「本当に欲しくなるプロダクトか?」「地域のオリジナリティはあるか?」「コンセプトやターゲットは明確か?」など、サポートメンバーから真剣なアドバイスが行われ、匠は約一年の試行錯誤を経てプロダクトを完成させた。



サポートメンバー生駒氏とのエリア・コンサルティング



1月18日、プレゼンテーションにて

そこから新しい価値を生み出すとして、レクサスのブランド思想の一つである「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。桐下駄職人・猪ノ原武史さんの思いと、完成したプロダクトを紹介する。



スーパーバイザー 小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科卒。「料理の鉄人」や「ニューデザインパラダイス」、映画「おくりびと」など数多くのヒット作品の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。

桐下駄の新しいライフスタイル提案

茨城県代表として選出された親子三代続く桐下駄職人の猪ノ原さん(筑西市関城)は、国産原木の製材から製造まで一貫作業で行い、軽さと履き心地の良さを追及し技術をさらに磨いている。

結城地方の桐下駄は江戸時代から続き、時代の変化とともに、靴が普及すると、桐下駄の需要が大幅に減り、今では若い職人も数少なくなりました。



桐下駄に花緒をすげる猪ノ原さん

茨城の特色を活かした製品で地域活性化

地域の特色を活かし、高い感性と品質により、毎日の生活に驚きや感動をもたらすプロダクトとはなにかを必死で考える日々。テーマを決めて意味を考えて作り上げていくという過程は、とても充実した時間だった。

レクサスのモノづくりに対する姿勢などを学び、製造段階から大切にしている柱のひとつに職人の手による匠の技が挙げられていることに共感した。



レクサスの前で

に履いて欲しいのかを考え、製品のPRや女性が好むヒールの角度や高さなど様々なアドバイスをもらった。自分のなかでレクサスをイメージして完成したプロダクトは「クロコGETA」。表面にアフリカ原産のクロコダイ



プロジェクトへの思いを語る猪ノ原さん

小さい頃から工房が遊び場。で祖父、父親の桐下駄職人の姿をみて育った。大学を卒業後、サラリーマンを数年経験してから、2003年家業を継ぐため父・昭廣さんに弟子入り。桐下駄職人の道に進むのは自然の流れだった。

毎日下駄作りの基本技術を学び、一人前の職人になるまで10年はかかる。失敗と成功を繰り返しながら、原木の選び方、工具の手入れ、長時間履いても痛くならない鼻緒のすげ方や、下駄作りに関わる



プレゼンをする猪ノ原さん

合わせを自分仕様にするように可能な範囲で革の色や花緒、サイズを選択してもらいオーダーメイドで製作する。桐下駄の進化が感じられる製品に仕上がった。

今後は花緒生地と結城紬を使用した、茨城の特色を活かした製品を考えている。地域の活性化や日本の四季に合った桐下駄を若い力や感性でつくっていることに関心をもってもらう地域への誇りになっていくことを目指している。レクサスのプロジェクトに



完成プロダクト「クロコGETA」

ルの革を贅沢に使用し耐久性を大きく向上させ、花緒には甲州印伝をすげた。クロコダイルの革は和の桐下駄に重厚感を与え、車の内外装の組み



完成プロダクトの「クロコGETA」とエイ桐下駄



猪ノ原 武史 茨城県 / 桐下駄職人

2003年家業を継ぐため工場実務に就き、2005年に全国植樹祭にて「天賢桐下駄」を出品。2006年筑西市の名産品として「優良産品推奨品」の指定を受ける。2011年工房の創業60周年にあわせて、記念モデルの「デザインクロス」シリーズの製作をはじめ、各地百貨店で多数出展。2015年明治神宮例祭全国特産物奉獻式に最高級本柎下駄を奉納する。同年12月茨城県よりいばらき観光マイスターの認定を受ける。



「デザインクロス」シリーズの製作を開始した。今までの桐下駄のイメージや伝統を守りながら、他には無いものを作っていくかという価格競争だけでは残れない。需要が少なくなった下駄をファッションアイテムとして提案。ジーンズに合わせて履ける下駄など毎年10種類ほど新しい商品を開発している。使いやすさ、質、耐久性、素材など、新しい時代の流行に合わせ手に取ってもらえるよう工夫を凝らしている。



生駒氏を囲んで

参加することで、多くの人と出合い、かけがえない経験をすることができた。制約に捉われずに、自由な発想でものづくりをすることが大切だと感じた。他県の匠とコラボレーションして、次の製品開発を進めている。「下駄は健康に良い。第二の心臓といわれている足裏を刺激することで健康維持にも効果がある。祖父、父親の続けてきた、伝統と職人の技術を次の世代に伝えて、桐下駄文化を広めていきたい」と話した。